

⑤ 指導方法アラカルト

指導方法アラカルト

1. 訓練生(訓練対象者)のレベルを見極め
そのレベルに合った指導を行う
2. 訓練生の目線を常に意識する
3. 効果的な指導方法のヒント
4. 入門は指導員



⑤ 指導方法アラカルト

1. 訓練生（訓練対象者）の「レベル」を見極め そのレベルにあった指導を行う

訓練生が学習を放棄してしまう原因の多くは、「説明が難しすぎて努力が報われない」と感じた時にあります。

レベルの総合的な把握

- 単なる知識量だけでなく、経験、理解度、思考の癖、意欲などを総合的に見てレベルを判断します。

スタートラインとステップ

- **低めからスタート**：面談で把握したレベルよりも「少し低め」から始めます。最初は「中学生が分かる」言葉を意識し、専門用語は避けましょう。
- **スモールステップ**：指導内容は「かたまり（ブロック）」に分け、「基礎から応用へ」「易しいものから難しいものへ」と順序立てて進めます。

「会話」のような説明

- 原稿やテキストの「棒読み」は厳禁です。自分の言葉で、会話するように語りかけることが、訓練生の信頼と意欲を維持します。

全体から部分へ（抽象⇒具体⇒抽象）

- いきなり細部の説明に入らず、まず「全体像」を示し、次に「構成要素（部分）」を説明し、最後にまた全体に戻ります。
- 指導員と訓練生の頭の中の「イメージ」を一致させる作業です。

共通の「たとえ話」

- 訓練生全員が共有できる経験や話題を使った「たとえ話」や「実例」は、劇的な理解（「そういうことか！」という納得）を生みます。
- 一部の人しか知らない例えは混乱を招くため避けましょう。

2. 訓練生の目線を常に意識する

訓練生を「迷子」にさせない工夫が必要です。

目線の誘導

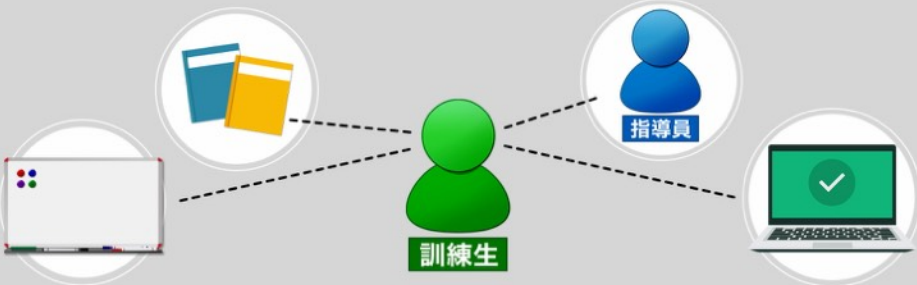
- 指導員は、訓練生の目線がどこ（ホワイトボード、手元、スクリーン）に向いているかを常に意識し、コントロールします。
- 目の動きを観察することで、理解度や集中度を判断できます。

手元資料の一致

- 指導員と訓練生は、可能な限り「同じもの」を見ながら進めます。
- 訓練生の手元にはない資料について話すと、彼らは資料を探すことに気を取られ、説明が耳に入りません。ない場合は板書や追加配布で補います。

POINT
2 訓練生の目線を常に意識する

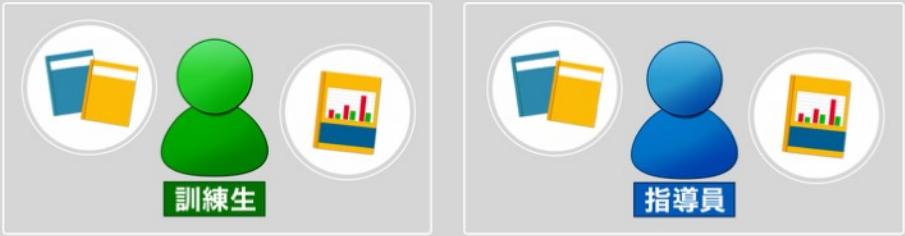
(1) 常に**訓練生の目線**をコントロールしましょう



目線が固定されると、説明に**適度な「間」**ができる
目線を向けるものを極力絞っておく

POINT
2 訓練生の目線を常に意識する

(2) **訓練生が購入するテキスト、配布教材・資料**
指導員が訓練で使用するテキスト、教材・資料と同じものにする



訓練生の手元にはない内容を説明しなければならない場合は
必ず**別の資料**を配布するか、**板書等で補う**必要がある

3. 効果的な指導方法のヒント

実演は「できて当たり前」

- 訓練生は指導員の実演を厳しい目で見ています。手際が悪かったり失敗したりすれば、敬意は失われます。
- 余計な動作（クセ）も真似してしまうため、無駄のない完璧な実演を見せましょう。

模型・実物の活用

- 口頭説明だけでなく、実物や模型を見せることで理解スピードは格段に上がります。

4. 入門は指導員

「自立・自律」へ

- 初期はきめ細かく指導しますが、習得が進めば、自ら考え行動する「**自立（他に依存しない）**」と「**自律（自分を律する）**」を促します。

職業人としての基本動作

- 技術だけでなく、安全衛生、あいさつ、報連相、整理整頓、清掃といった「仕事のルーチン」を徹底させ、即戦力となる**職業習慣**を身に付けさせましょう。

